

17. 今北山・磯部・弁財天古墳群

所在地：鯖江市乙坂今北町・磯部町・落井町

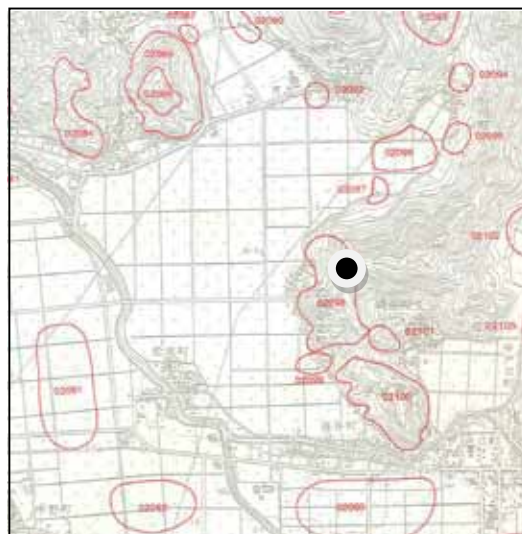
調査原因：範囲内容確認調査

調査期間：平成 27 年 6 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

調査主体：鯖江市教育委員会

調査面積：156 m²

時代：弥生・古墳



位置図（S=1/25,000）

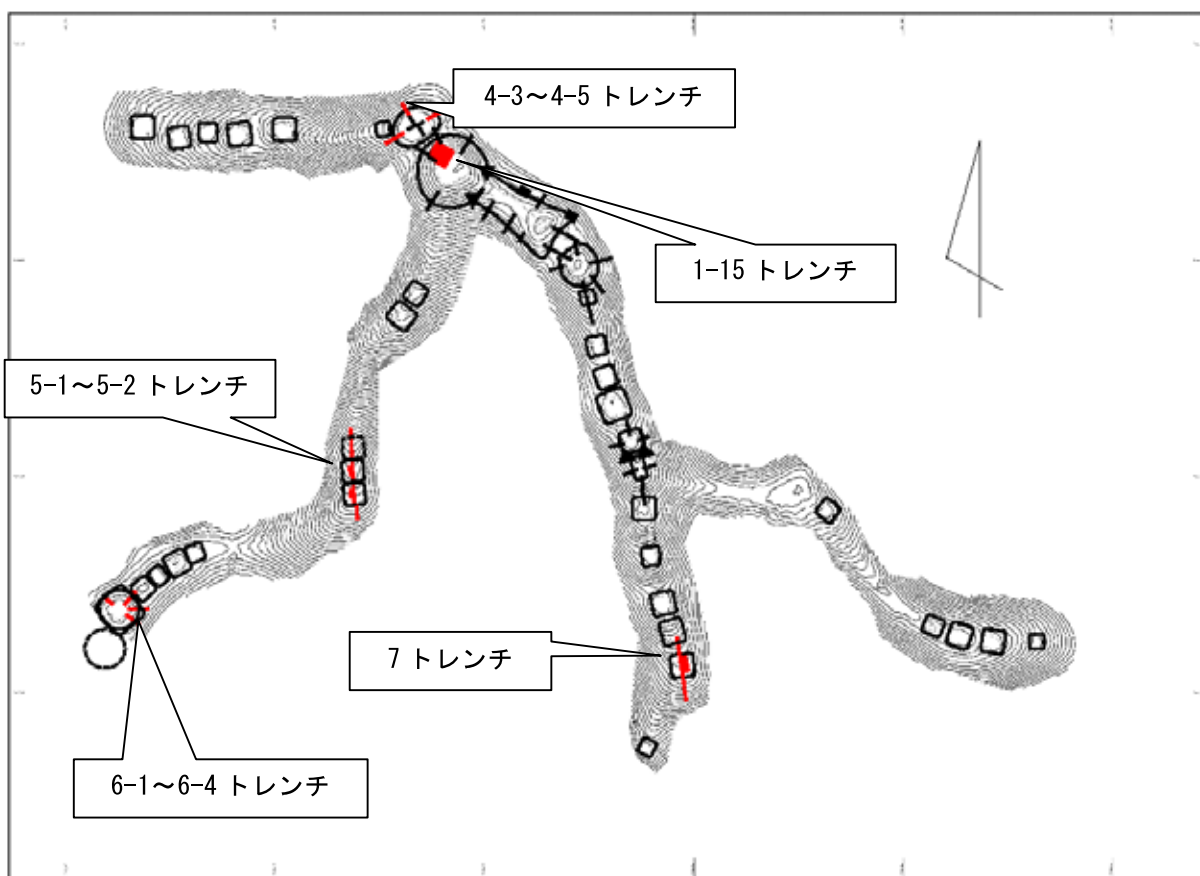
調査の概要 3つの古墳群から構成される本遺跡は鯖江市東部の低丘陵上にあり、これまでの踏査および調査によって総数 78 基の墳墓や古墳（以下まとめて古墳と記述）が確認されています。市では本遺跡の国史跡指定を目指しており、その基礎資料を得るため平成 22 年度から弁財天古墳群の調査に着手、次いで平成 25 年度から今北山古墳群の調査を実施しています。今回の調査は「今北山古墳」の後円部墳頂平坦面にある盗掘坑の清掃調査に加え、主に尾根中位から低位にかけての古墳を対象に墳形・規模・築造時期の確認を目的とした調査を実施しました。

遺構 1-15 トレンチで検出した盗掘坑は後円部斜面中腹から墳頂平坦面中央に至る大規模なもので、人が立って通行できるように掘削されていました。未調査のトンネル部を含めると総延長は 8m 以上になるものと推測されます。この盗掘坑に切られるように短辺 1m、長辺 4m 以上の土壌状遺構の一部を検出しましたが、調査は実施していません。このほか主尾根低位（7 トレンチ）では山側のみ直線の溝で区画して平坦面を造成した方形墳を確認し、平坦面やや北寄りで埋葬施設とみられる長軸 3.1m、短軸 2.2m の土壌プランを検出しました。さらに、古墳の有無が不明瞭であった支尾根中位（5-1～5-2 トレンチ）でも 7 トレンチと似た方形墳が 3 基確認され、いずれも小規模な埋葬施設を有していました。最も低い支尾根下位の古墳（6-1～6-4 トレンチ）は円形墳とみられますが、もともとあった方形墳を再利用した可能性があります。

遺物 コンテナバットにして 3 箱分の遺物が出土しました。残念ながら盗掘坑では古墳に直接関わる遺物は出土しませんでした。埋土上部から大正から昭和初期にかけて生産されたサイダー瓶が出土しており、盗掘を行った者が残っていたものと推測されます。いっぽう、主尾根低位で検出した方形墳の平坦面からは弥生後期終末から古墳時代初頭に属する遺物が出土したほか、支尾根低位にある円形墳の墳頂部や周溝部でもほぼ同時期の遺物が出土したほか須恵器片も出土しています。

まとめ 今北山古墳の盗掘坑については、サイダー瓶の生産年代や戦前にトンネルに入って遊んだという古老の話を総合すると昭和初期までに何者かによって掘削されたものと考え

られます。この盗掘坑付近で確認された土壌状遺構については未掘のためその性格について明確なことはわからないのですが、墳頂平坦面北端に位置するため本墳の中心的な埋葬施設とは考え難く別の性格の検討も必要でしょう。このほか、これまでの調査によって本古墳群では概ね弥生時代後期終末期ごろから造墓活動を始めたことが明らかとなり、王山古墳群のように丘陵の最高所から低所へと順次築造したのではなく低所から高所へと築いた可能性が高いようです。最終的にはもう一度丘陵の低位へと築造場所を戻し造墓活動が収束するのかもしれませんが。群内の個々の古墳について詳細な築造過程を明らかにすることは困難ですが、来年度も調査を継続して古墳群の概要を明らかにしていく予定です。 (深川義之)



第1図 今北山・磯部古墳群分布図 (H27 トレンチ配置)



写真1 盗掘坑調査状況(1-15 トレンチ)



写真2 遺物出土状況 (6-1 トレン)